

もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	令和6年11月13日（水）午後2時～午後4時			
開催場所	盛岡大学 岩姫ラウンジ			
出席者	山崎智樹	縄手豊子	遠藤政幸	鈴木聖子
	藤澤由蔵	小笠原秀夫	佐藤尚弘	兼平孝信
	野田尚紀	高橋和夫	寺長根浩	中村雅幸
	櫻裕子	千葉順子		
	盛岡大学学生 15 人			

【開催内容】

山崎智樹議員及び縄手豊子議員の司会進行により、遠藤盛岡市議会議長の挨拶の後、「盛岡市の10年後の未来」をテーマにSOUNDカードを使用したワールドカフェ方式による意見交換を行った。

参加者の所感等は次のとおり。

1 参加学生の所感

○参加しようと思った理由

- ・議員の方々とお話しする機会がないので楽しそうだったから。
- ・自分の話す力を向上させるため。
- ・ゼミの先生からの周知。
- ・先輩に誘われて気になったから。
- ・空き時間に良い機会を経験できると思ったから。
- ・議員の方々が盛岡市をどのように考えて活動しているのか知りたいと思ったから。
- ・新しいことにチャレンジしてみようと思ったから。

○得られたもの

- ・議員の方々と私たちが普段「盛岡がこうなってほしい」と思っていることが同じで嬉しかった。
- ・議員の方々だけでなく、他の学生の意見も聞けて視野や視点が大きく変わった。
- ・一緒に参加した友人の考えも知ることができ、良い時間になった。
- ・盛岡に対する見方や視点の大切さを感じた。
- ・自分自身だけでは感じることはできなかった不満点や改善策、対策方法などを聞いた。
- ・増やすだけでなく、捨てることも大事なことだと感じた。

- ・議員の方々と話すことで気づきや発見が多く、勉強になった。
- ・初めて知った施設など、場所を知るよい機会になった。
- ・問題とする点が自分と他人とで違うなど、様々な視点から盛岡について考えることができた。
- ・子育てや教育などについて、自分と近い意見を持つ議員の方がいて安心した。
- ・自分の得意なことを活かす職場で働くなど、様々な視点から盛岡市の未来や自分ができることを考えることができた。
- ・コミュニケーションの充実やコミュニティの形成、地域連携など、今まで深く考えていなかった点が多くあったことに気が付き、知識や考えが深まった。
- ・地域の人たちは、自分で考えているよりもオープンだということがわかった。
- ・ボランティアに意欲的に参加する学生がいることを知り、自分も頑張ろうという気持ちになった。

○議員の雰囲気

- ・優しい方々で面白く、あたたかい方がたくさんいた。
- ・自分たちの意見によくうなずいてもらい、とても良い雰囲気だった。
- ・思っていた以上にとても話しやすかった。
- ・うまく自分の話がまとまらなくても、内容を理解してくれた。
- ・明るく気軽に話せる雰囲気、意見交換を楽しむことができた。
- ・メディアで報じる議員のイメージは良くなかったが、自分たちの意見を聞いてくれて、しっかり受け答えをしてくれて嬉しかった。
- ・一人一人が問題にする点は違い、それぞれがその問題に対して深く考えており、話やすく自分たちの視点にも寄り添ってくれて話しやすかった。
- ・堅い雰囲気だと思っていたが、話しく、たくさん話をしたり聞いていただいたりして、あたたかい雰囲気だった。
- ・市民の代表というのがわかった。
- ・議員同士も仲が良い感じがした。
- ・議員の方々から話題を振られたり、質問をしてくれたおかげで有意義な話し合いをすることができた。

2 参加議員の所感

○参加しての所感

- ・大学生と話ができて楽しかった。盛岡市外や県外の学生などの「外からの視点」を聞くことができた。

- ・若者（学生）の意見を聞くことができ、参考になるとともに刺激になった。
- ・地元志向の学生が多く、就職は盛岡市内や県内志望が嬉しかった。将来のまちづくりに積極的に関わるような人材になってほしいと感じた。
- ・県外出身の学生も盛岡に関心が高く、まちづくりを含め、周囲の環境に注意を払っていると感じた。
- ・学生生活やアルバイトなどの社会との接点を通じて、社会課題や問題意識を持っていることに驚きと嬉しさを感じた。
- ・大学生の視点から盛岡市に対する思いやどのようになってほしいかの意見が聞けて興味深いものだった。若者が希望を持てる盛岡になっていくためにがんばろう。
- ・学年や学科によって課題認識が違い、大変参考になった。
- ・将来に向けた前向きな社会を希望していて、10年後の盛岡が現代の若者たちの夢がかなう社会にしていきたい。
- ・学生をイベントとしてではなく、もっと多く引き出しやすい環境にしていかなければならない。
- ・多くの参加者の共通点は、車を持っている事、アルバイト収入が生活費の一部である事。相違点は、盛岡市が都会的で楽しいと思う人と娯楽が少ないと思う人の相反する意見。電車とバスで通学している生徒は、通学に要する時間が大きく時間的余裕がない。

○意見交換の内容やテーマについての所感

- ・物価高が話題となり、学生生活の苦しさを聞くことができた。
- ・議員が話題を誘導することがないように注意が必要。
- ・交流の時間が少なかった。
- ・SOUNDカードに書かれている内容がやや難しいかもしれない。
- ・テーマを「10年後の盛岡」よりも若者の次の世代をイメージした「30年後」にする方がいいかもしれない。
- ・盛岡の魅力や課題などを若者の視点で感じることで、新たな気づきになった。
- ・今の時代の若者の考えを聞くことができた。
- ・学生はしっかりとした意見を持っており、未来を作ってくれと期待している。
- ・多様な視点や意見を話し合うことはできたが、具体的に10年後の盛岡のあるべき姿や、そのための課題をどう解決していくかを話し合うことができなかった。今回出された意見を集約してテーマを定め、議員を含めたそれぞれの代表者が深めていく機会を持てればよいと思う。
- ・物価高や税負担、公共交通問題など、学生は学生なりの課題解決を求めていることを知った。

- ・盛岡の魅力は地元にいると気が付きにくい。市民がもっと自分の市の魅力を知る機会や方法を取り入れるべき。
- ・若者が定着するためのツールとして、それぞれのステージに応じた悩みを相談できる場所や悩みを抱えた者同士が話し合える場所が欲しい。
- ・学生の皆さんは、今の課題をしっかりととらえ、様々視点から盛岡の未来を考えていることに感動した。
- ・解決できない問題として人口減少があり、現在の GDP を人口が減っても維持できるようにする為に、先端技術を導入して成長産業を作る事が出来れば、経済成長しながら移住者が増える可能性は十分ある。
- ・進学、就職で盛岡を離れる学生たちの4割以上は地元に戻りたいと考えているという話や、就職先や専門知識を学べる環境があり、娯楽がもう少し充実していれば盛岡を選ぶ学生は多いという事を聞き、まだまだ希望があると感じた。

○意見交換の中で出された意見（心に残った言葉）や所感

- ・交流することによって視野が広がる
- ・若者たちの遊び場不足や交通環境の悪さについて、高校生議会で出た意見と相まって確実に問題であると感じた。
- ・若い方々の意見や思いを新たに感じた。
- ・世代を超えた人と人との団結が街をつくる。
- ・しっかりとした意見を持ち、未来を作ってくださると期待。
- ・『ありがとう』が溢れる街」「思いやりのある街」といった声が複数聞こえた。
- ・「仕送りは家賃、奨学金は学費に充当し、アルバイト収入が生活費という中で、食費と交通費の値上がりが生活の苦しさに直結している」という話を聞き、解決は急務であると痛感した。
- ・バス等の公共交通機関の充実は、若者のほか高齢者も盛岡に住みたいと思えるために重要だと感じた。
- ・若者定着を図るためには、若者が集う場所が必要。
- ・盛岡は地元の人たちが思っているよりも安心して暮らせる良い街。
- ・県外からきている大学生は地域で交わることが難しいと感じており、地域とのつながりが持てるような支援が必要。
- ・アルバイトをしなければ、学生生活を続けられない現状が間違っている。
- ・「あきらめる事をあきらめる」…「あきらめている事は？」というカードに対する回答
- ・自治会や町内会活動に積極参加する生徒がいた。

3 意見交換会の振り返り（当日の個人ワークより）

10 年後にあって欲しい盛岡の姿	それに向けて取り組みたいこと（または、必要なこと）
人と人のつながりが深くてあたたかい街	地域コミュニティの形成や活性化
「盛岡という街が好き」と言える街	自然や景観、伝統文化や人情などを後世に残す活動
	自分の能力を高め、自分自身を好きと思えるように教育に力を入れる
	盛岡にしかないものやできないものを創り出す
寄り添え合える街	対面のコミュニケーションを充実
みんなが暮らしやすい街	教育に関わる活動への取り組みや若い世代と高齢世代との対話の機会を増やし、様々な人と考えを共有する
	バリアフリーの交通手段や海外観光客が訪れやすい街
交通網が整い、活気のある街	バスのダイヤ遅延解消や交通網の整備と若者からの岩手の魅力などの情報発信
もっと若い人が多くて盛り上がる街	盛岡市の良いところの発信や様々なイベントに積極的に参加
地域と若者の距離が近い街	地域のイベントやボランティアへの参加や企画
人口減少の中でも経済的に成長できる仕組みがある街	最先端分野の技術を柔軟に取り入れ、成長産業を興す
マイノリティの人々にも生きやすい街	様々な人が意見を言いやすく、かつ直接意見が届く場に参加する
子どもが安心して成長できる街	キャリア教育でたくさん子どもとふれあい、自分の未来への希望と盛岡の良さ知ってもらいたい。
子どもたちがのびのびと成長できて一人一人の特性に応じて学習体制が変化する学校教育	学童のアルバイトを通し、子ども一人一人をきちんと見て、その子に応じた支援をする。
「ありがとう」がいっぱいの街	困っている人がいたら積極的に助け、小さなことでも自分から「ありがとう」と感謝を表す
働きたい場所が選択できる街	公共交通の整備や中核的な産業の設置と周辺整備による家族が楽しく住める街の実現。

<その他>

- ・安全安心なまちづくりのため、地域コミュニティの再確認と必要性を唱えたい
- ・家庭と仕事の両立が図られ、家庭内や地域で挨拶がしっかり交わされる社会。
- ・大学生は勉強や交流により人間性を高めていく場だが、アルバイトで大変となっている

現状は変えていかなければならない。

- ・気軽に自分の意見を話したり提示できる場が欲しい。
- ・多くの人々と課題を共有し、解決策を考え、実行できるサイクルを回したい。
- ・便利な公共交通網の整備と娯楽施設が増えてほしい。
- ・自分の学科だからできる盛岡市のPRを考えたい。
- ・学生のうちに盛岡の魅力を知り、アピールできるようたくさん学びたい。・盛岡の街の魅力や住みやすさが向上するよう、プロモーションの強化や様々な業種や世代が集う機会の創出、コミュニティの活性化や当事者意識の醸成に取り組みたい。